

苅田町立図書館 新着推し本紹介のこーなー

3月の推し本



『日本はこうしてつくられた』

安部 龍太郎 // 著 小学館 請求記号 210.3 /ア/ 資料番号 610133241

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00604254>

【紹介文】古代日本史がマイブームです。遺された資料が少ないこともあり、古代史は解明できていないことも多いのですが、それだけに諸説あり好奇心が刺激されます。この本にも好奇心を刺激されました。久留米出身の直木賞作家、安部龍太郎さんが古墳・遺跡・社寺仏閣を訪ね、専門家の話をもとに大和朝廷とのつながりについて自説を展開させています。宇佐神宮、国東半島にまつわる話もあります。九州と日本の始まりの関係にワクワクし、現地をこの目で確かめねば！と思います。写真が多くて読みやすく、旅の参考にもなりそうです。

『それはあくまで偶然です』

ジェフリー S.ローゼンタール // 著 早川書房 請求記号 417 /ロ/ 資料番号 610135022

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00604676>

【紹介文】今日はツイてないな〜とか、たまたま買い物に行ったら限定のラス1が買えた！ラッキー♪なんて、日常的によく運が良い・悪いと考えませんか？統計や確率の話にもなるのですが、幸運も不運も偶然で、何の因果もないけどなにかの意味を与えてしまいがち。それで幸福な気持ちになれたり、納得して諦めることができたりもします。この「運」を統計学者である著者が、ユーモアをまじえて分かりやすく語る、統計学よみ物です。

『間取りのすごい新常識』

エクснаレッジ 請求記号 527.1 /マ/ 資料番号 610133332

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00604268>

【紹介文】新聞の広告チラシ。一番楽しみにしているのって何ですか？私は断然、家の間取りが載ったものです(笑)三度の飯より間取りが好き！ってほどではないのですが、つつい見ちゃう。家を買う予定もリフォームする予定もないのに、なんなんでしょうね〜。さて、こちらの本では近年流行りの導線や収納のアイデアなど項目ごとに例になる間取りが載っているので夢が膨らむ〜☆

『18歳からの自炊塾』

比良松 道一 // 著 家の光協会 請求記号 596 /ヒ/ 資料番号 610129710

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603227>

【紹介文】この春、親元を離れ新社会人・大学生となる若者が多いことだろう。生活する上で、外食よりも節約のために自炊かなと思いがちであるが、果たしてどれだけ自分で献立を考え、作れるのだろうか。「自炊塾」：九州大学の基幹教育科目としての講義だった。キチンと3か月のスケジュールが組まれ、最後は「理想の食生活」を知る訳である。「だし」とは？「麴」とは？食材から食文化の価値を知り、それが自身の健康へと繋がる。包丁を握って魚をさばくことができるのか？この学生たちは成果を挙げ、上達している。

『力尽き筋トレ』

石本 哲郎 // 著 光文社 請求記号 780.7/4/ 資料番号 610130452

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603296>

【紹介文】大人になると運動する機会って少なくなりますよね？運動しないといけないと思いつつも実行に移せない人は多いと思います。私もその内の1人です。理由はいろいろありますが、運動が嫌い・やる気が出ないというのが大きな理由です。本書は筋トレの本ではありますが、トレーニングが4段階（5%・20%・60%・80%）に分かれており、その日の力尽き度によって選ぶことが出来ます。一番簡単なものでは横になって息を止めるだけ！または運動や食事の正しい知識を得るための読む筋トレ。誰でも出来そうです。運動が嫌いな方はもちろん、外出自粛などで体が鈍ってしまった方にもおすすめです。

『公孫龍』（巻1）

宮城谷 昌光 // 著 新潮社 請求記号 F/ミ/ 資料番号 610134462

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00604455>

【紹介文】最近、中国の時代小説を書く作家が少なくなりました。その貴重な作家の筆頭、宮城谷氏。『楽毅』『晏子』『孟嘗君』『重耳』などなど。心躍るような筆致で私を虜にしてくれました。そしてどれも舞台になるのは「春秋戦国時代」。長い中国の歴史の中で、この時代に注目し続け、主役ではないにせよ、一目置かれる人物の物語を書き続けています。「奇貨居くべし」で有名な秦の商人呂不韋も、太公望で有名な呂尚も、宮城谷氏の物語の主人公です。その生き生きと描かれる次なる主人公がこの「公孫龍」。有名な「史記」にも扱いますが、謎に包まれていますね。これを機会に読んでみませんか！

『昔のくらし昔の道具これなあに?』（児童書・むかしのことから）

春風亭 昇太 // 著 小林 克 // 監修 幻冬舎 請求記号 383/シ/ 資料番号 620051698

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00604513>

【紹介文】落語家で笑点の司会でも有名な春風亭昇太さんが昔のことについて書かれた本。江戸時代から大正・昭和にかけて作られた昔の道具たちが紹介されています。当時、最先端の道具をコレなあに?ってクイズ形式で登場します。ナニコレ?って思うものやなつかしい!って思うものも出てきます。そして、昇太さんがその当時の格好でいろんなところにひょっこり登場していますよ。今使っている道具たちもどんどん進化していくのだろうなあ。

『インディゴをさがして』（児童書・ものがたり）

クララ キヨコ クマガイ // 著 小学館 請求記号 933/ク/ 資料番号 620051623

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00604484>

【紹介文】色の中でいちばん最後になまえがついたのがインディゴブルーだったそうです。黒に近い深い青、あい色。そのインディゴブルーを見つけた女の子のお話です。この世界にはいろいろな美しい色にあふれていて、その色で元気や勇気をもらえることもあります。女の子は、王さまに永遠の命をあたえる色をつかまえるように命令されます。そんな色ってほんとうにあるのでしょうか。美しいお話と色に満たされた一冊です。



問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30（木・金は19：00まで。本館のみ）

ホームページから蔵書検索もできます



(2021.3.4発行)